

令和5年度 学校マネジメントシート

(三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出し 元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。 ※元気は、健康や体力を、笑顔は感性や情操を、光は個性や特性を意味する。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀南地域の関係機関・団体と協働し学習をすすめている。 ・ 紀南地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ・ 自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ・ 学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ・ 紀南地域等の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ・ 紀南地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。 ・ 特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校等へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ・ 教育環境をソフト、ハード面で整備し、児童・生徒が安全・安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ・ ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2. 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童・生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康で笑顔で、安心して学べること ・ 可能性を伸ばし、社会的に自立すること <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒が、健康で笑顔で、安全に学べること ・ 児童・生徒の進路が保障されること <p><紀南地区の障がい児を持つ保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設見学等の情報提供の機会があること ・ 教育相談の機会があること <p><紀南地区の教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること ・ 特別支援教育に関する相談の機関であること 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有意義な学校生活と進路保障 <p><福祉・医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携強化と情報共有 <p><地域の公立学校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修と専門的知識の提供、教育相談 <p><紀南地区の企業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就労に向けた連携 <p><金山地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸行事等へ参加し、認知度を高める 	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動への理解、支援と参画 <p><福祉・医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参加、自立に向けた相談の充実 <p><地域の公立学校等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人事交流と本校への理解、協力 <p><紀南地区の企業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校への理解、協力 <p><金山地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校への更なる理解、交流

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器について、全体で見ると約51%だが、使う先生と使わない先生がいるのではないか。どのようにして活用していくのが課題である。 ・「働くこと」と合わせて、「余暇の過ごし方」についても教えてほしい。同じ趣味をもつ友達もできるのではないか。 ・昔からの行事について、由来なども教えてほしい。「お盆」はただの休みではなく、どういう意味があるのかを知ることが大切である。 ・土をさわる活動を行ってほしい。土をさわる活動には生きていくうえで大切なヒントがある。昔のように、田んぼなどでのびのび遊んでほしい。
(4) 現状と課題	教育活動	<p>①交流学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校がある金山地区との交流を進めていく必要がある。学校関係者評価委員会には金山区長も参加しているので、地域の活動状況を把握し、どのような形で参加していくのかを検討する。 ・同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校とは積極的に交流活動を続けていく必要がある。コロナ禍の状況でも継続していけるような取り組みを進める。 <p>②ICT教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校となっても、オンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるように準備する。 ・高等部では一人一台端末（iPad）を整備しており、日常的にICTを利用して授業が行えるようにする。教育効果を高めるためには、どのような形で使えばよいのかを検討し、校内で情報を共有する。
	学校運営等	<p>①研修機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。 ・新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。 <p>②職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間は減少傾向にあるが、さらなる取り組みが必要である。効率的な業務の進め方などの情報を共有したり、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。

3. 中長期的な重点目標

教育活動	<p><学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、「個別の教育支援計画」等を策定する。 ・児童生徒の自主的な活動を促進することにより、日々の生活を豊かに生きる力を育てる。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する。 ・小学部、中学部及び高等部の特性を生かし、学部間の連携を深め、一貫性のある教育を進める。 <p><安全で安心な学び場づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや暴力のない学校づくりに取り組む。 ・防災教育、防災対策の推進に努める。
学校運営等	<p><保護者・地域住民等との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校や福祉関係施設、行政機関等との連携を強める。 ・地域における特別支援教育を推進するために、特別支援学校のセンター的機能による支援の充実に取り組む。 <p><資質向上の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識の習得に努める。 ・新しい時代の教育に対応できるよう研鑽と修養に積極的に取り組む。 <p><働きやすい職場環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務分担等の見直しを図り、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容	結果
学習指導 の充実	<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの成長に合わせた、きめ細やかな授業を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画（日常生活の指導）の目標達成率を80%以上とし、一人ひとりのニーズに合った授業となっているかを振り返る。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を図り、生徒の学びを深めるとともに、生徒のキャリアの形成を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部内で授業研究を実施し、1人1回提案授業を行う。 ・提案授業者は、一定期間内に他学部の授業見学もしくは他学部の授業の動画を撮影して視聴し、自身の研鑽の機会とする。 ・提案授業後に事後検討会の場を設け、目標や課題設定、生徒への支援等が生徒の学びにつながっているか、キャリア発達を育む取り組みとなっているかを振り返る。また、事後検討会で話し合った内容を、毎回全学部へ周知する。 ・授業研究について、毎回全学部へ告知して参観を募り、授業に対して多角的な意見を出してもらう機会を設ける。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadやパソコンの操作方法を身に付け、各自が操作できるよう支援する。 ・ICT機器を用いた視覚支援を取り入れる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回以上、授業で活用する。 ・文化祭で制作動画の発表を行う。 ・授業の見直しを持ち、一人で活動をすすめることができる（2教科以上） <p><教務・情報部（教務）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の目標と評価が児童生徒にとって、具体的で実態に応じたものになっているかを確認しながら、PDCAサイクルを促し、一人ひとりの可能性を引き出す。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の目標設定と実践、評価についての研修を年1回以上実施する。PDCAサイクルが効果的に機能しているかの検討会を年4回実施する。 <p><教務・情報部（情報）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にICT機器を活用した授業を実施し、新しい学びの創造や実践に取り組む。 	<p style="text-align: center;">(年度末および適宜記載)</p>

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T機器を活用した授業を、全体の50%以上とする。 ・ 年度末に授業担当より聞き取りを行い、I C T活用率を算出して、校内で共有する。 <p><研修・人権教育部（人権）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小、中学部の居住地校交流、各学部の学校間交流を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部、年1回以上の学校間交流を行う。 <p><保健部（保健指導）></p> <p>（1）歯科指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の児童生徒の障がいの状態や発達の段階の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にする。 ・ 歯・口の健康づくりの実践を、生活の自立や社会生活への参加に繋げる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部、年に1回実施する <p>（2）感染症予防指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいの特性に応じた指導の工夫を行い、集団及び個別の指導を行う。 ・ 自らの判断や意思に基づいて、適切に行動選択し、主体的に健康的な行動を実践できる力をつける。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部、年に1回実施する <p>（3）思春期教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒一人ひとりの知的障がいの状態等を踏まえ、発達段階、身体的成熟や心理的発達に合わせて、社会生活への適応を図るための指導を行い、必要に応じて家庭との密接な連携・協力体制をとる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部、年に1回実施する 	
<p>キャリア教育の充実</p>	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在校生と卒業生の交流を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間2回、在校生と卒業生が共に参加できる行事をP T A・同窓会合同で行う。 <p><研修・人権教育部（研修）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「キャリア教育の視点による授業実践」という研修テーマをもとに各学部で授業研究をすすめる。 <p><保健部（食育指導）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食を生きた教材として活用する。 	<p>(年度末および適宜記載)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と関わりの深い事業所等の食材を積極的に使用し、地域の方に見守られながら成長していることを、給食を通して伝える。 ・様々な献立を給食に取り入れ、児童生徒の「食経験」を増やして、食に対する知的好奇心や興味関心を高める。 ・地域の農畜産物生産者と連携・協力し、出前授業等を通して交流することで児童生徒の地域社会への参画に繋げる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に関わりのある納入業者を利用する。 ・日常の給食時間の児童生徒の変化（食べられるものが増えた・食べるときの姿勢等） ・出前授業の事後指導アンケートで、「〇〇さんのおはなしをよく聞くことができた」等で「はい」と答える児童生徒が80%以上 <p><支援部（進路支援）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒の進路保障に取り組み、各学部と連携して進路支援を行う。 <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般事業所対象の学校見学会を開催し、本校生徒の就労受け入れ実績のない事業所を、5事業所以上招く。 ・児童生徒を対象に、年3回以上進路学習を行う。 ・保護者を対象に、年1回進路説明会を行う。 	
<p>安全で安心な学び場づくり</p>	<p><生活指導部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない学校づくりをすすめるために、全校集会の中に、「命の大切さ」「仲間づくり」を意識した活動内容を取り入れる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回、いじめ・体罰アンケートを実施し、いじめや体罰の早期発見早期対応に繋げる。 ・全校集会では、児童生徒が「命の大切さ」を学ぶことができる教材を必ず使用する。 <p><保健部（健康診断）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断を実施する前に、児童生徒の障がいの状態や発達段階の的確な把握に基づいた事前指導等を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に実施方法についてのアンケートを行い、満足度80%以上とする。 <p><保健部（避難訓練）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が災害時に安全に避難できるよう、避難訓練の事前指導・事後指導を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後指導アンケートの「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目について「はい」と答えた児童生徒が80%以上とする。 	<p>(年度末および適宜記載)</p>

改善課題		
(年度末に記載)		

(2) 学校運営等

項目	取組内容	結果
保護者・地域住民等との連携	<p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習の成果を地域に発信し、地域とのつながりを深めたり、本校の活動の理解を広めたりする。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校、中学部3年生の出身小学校3校に作業作品を配布する。 ・文化祭にて保護者・地域の方々に向けて作業作品を販売する。 <p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が校外外の行事や交流活動に積極的に参加をする。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事や地域への活動等へ3回以上参加する ・授業で制作した物品や成果物を地域へ2回以上配布する。 <p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりによる保護者や卒業生、地域への情報提供を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの発行・保護者や関係機関への配布、町内掲示板への掲示を毎月行う。 	(年度末および適宜記載)
資質向上の取組	<p><教務・情報部(教務)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が、学校として、統一性、一貫性をもったものとなるよう、またより新学習指導要領に対応したものなるように再編する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部においてコースの見直しを行う。 ・全学部において指導と評価の計画がより明確なものとなるよう「合わせた指導」の見直しを行う。 <p><教務・情報部(情報)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校となっても、オンラインで学びが継続できるように準備をすすめる。 ・個人情報の管理について整備する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクールサポーターと連携し、ICT機器をスムーズに活用できるよう教員向けに情報を発信する。 ・個人情報等の管理についての規定を設け、教員に周知する。 	(年度末および適宜記載)

	<p><研修・人権教育部（研修）></p> <p>①転入職員対象の研修会を実施する。 ②教職員による「授業研究」を行い、授業の実践力を高める。 ③教職員対象の研修会を実施する。 ④外部講師招聘事業を活用し、教員の指導力を高める。 ⑤公開研修会を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①転入職員対象の研修会は、年2回、実施する。 ②「授業研究」については、報告会を学部ごとに1回ずつ実施する。 ③年2～3回実施する。 ④学期に1回実施する。 ⑤年1～2回実施する。</p> <p><生活指導部></p> <p>・不審者侵入時対応や児童生徒失踪時対応についての訓練や講話を実施し、緊急時に教職員が迅速な対応を取ることができるように校内体制を整える。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・教職員が専門的知識や技能を学ぶために、警察署に訓練や講話の講師を依頼する。</p> <p><保健部（研修）></p> <p>・救命救急法研修会を実施する。 ・食物アレルギー、てんかん発作、嘔吐処理についての校内研修を実施し、児童生徒の緊急時に教職員が迅速な対応をとれるような校内体制をつくる。 ・災害時や緊急時に適切な対応がとれるような校内体制をつくる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・教職員参加率90%以上とする。</p> <p>【成果指標】</p> <p>・職員アンケートで満足度80%以上とする。</p> <p><支援部（地域支援）></p> <p>・特別支援教育に係る教職員の専門的知識と支援の向上に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・特別支援教育に関する公開講座を開催する。 ・本校教員を対象とした特別支援教育に関する校内研修会を開催する ・地域支援活動によって得た、関係機関の研修や障がい者支援、特別支援教育についての情報を校内に環流する ・より効果的な教材や指導書を紹介する</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p><小学部></p> <p>・年休を取得しやすい環境を整える。</p>	(年度末および適宜記載)

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年休の取得率80%以上を目標とする。前期10日分、後期10日分として取得率を評価する。 <p><研修・人権教育部（研修）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育に関する研修会を実施する。 ・パワーハラスメント防止啓発についての研修会を実施する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれも、年1回以上、実施する。 <p><学校全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を整備する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日を月1回設定する。 ・会議の所要時間45分以内を遵守する。 ・月45時間を超える時間外労働をなくす。年間の時間外労働時間を360時間以内とする。 ・年間1人あたりの休暇取得日数を昨年度より増加させる。 ・コンプライアンスミーティングを実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校できた職員の割合80%以上 ・時間内の会議の割合80%以上 ・1人当たりの月平均時間外労働時間25時間以内 ・月45時間を超える時間外労働者数0人、年360時間を超える時間外労働者数0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・コンプライアンスミーティングを年3回以上 	
<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報提供を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新を月1回以上行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間ホームページ閲覧者数を6500人以上とする。 <p><学校全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動への理解を深めるために、報道機関への資料提供を行い、情報を積極的に配信する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回以上の資料提供を行う。 	<p>(年度末および適宜記載)</p>
改善課題		
(年度末に記載)		

--

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
------------------	----------

学校運営等につ いての改善策	(年度末に記載)
-------------------	----------